あなたの人生を削っての介護にNO！本当の親孝行の仕方を考えませんか？

NPOとなりのかいご
代表理事・社会福祉士 **川内 潤さんに聞く**

『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法』ポプラ社から出版。市内各書店で販売中。1200円（税別）

1980年平塚生まれ。伊勢原市在住。老人ホーム紹介事業、外資系コンサル会社、在宅・施設介護職員を経て、2008年に市民団体「となりのかいご」設立。2014年に「となりのかいご」をNPO法人化、代表理事に就任。ミッションは「家族を大切に思い一生懸命介護するからこそ虐待してしまうプロセスを断ち切る」こと

誰もが直面する親の介護。「もっと先のこと」「うちの親に限って」と思ってはいませんか？ある日突然、あなたの身に降りかかるのが「介護」なのです。

親孝行の仕方は色々ありますが、親の介護に縛られてしまうのはどうでしょう。親の立場からいうと「自分のために子が傷つきながら介護する」という状況を決して望んではいません。

また、年間10万人が介護のために離職していますが、本当に会社を辞めて介護をしなくてはいけないのでしょうか？介護のほとんどはプロに任せられるのでは？

介護される立場の親が本当に大切な家族であればこそ、あなたらしい生き方を大切にするべきです。そのためには、介護のプロに任せよう。仕事は辞めない。自分自身の時間を明確に持とう…など、川内さんの話を聞けば聞くほど、「介護」という言葉に頑なになっていた気持ちがほぐれ、自然に笑顔になれるから不思議です。

川内さんは現在、企業に出向いて介護で仕事を辞めないための勉強会や、出張個別相談を開いています。これは「これから介護に直面するかも知れない一般の方にこそ、情報提供の場が必要と思ったから。決して、背負うことが介護ではありませんよ。本当に大切なのは任せ方と頼り方なのです」。

このたびポプラ社から3月14日に発行した川内さんの著書『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法』には、介護の心がまえや「任せ方」「頼り方」が、川内さんの体験を基にした具体例を交えつつ、わかりやすく書かれています。

今、介護でお悩みの方、読んでみませんか。

営んでおられる岡部氏から、直接お話を伺う事もできました。

午後の訪問地、龍穏寺境内では、越生町教育委員会の近江氏が汗だくで走り回り、山門や蔵経堂等の解説に努めてくださいました。

その後本堂に入り、龍谷聡海住職の読経、ご回向の中、ご本尊に「お焼香」させていただき、道眞、道灌父子の菩提にも弔わせていただきました。また、ご住職から寺の歴史等のお話も伺うことができ、充実した時間を過ごせました。

今回の件は異例の事で、毛呂山・越生の両町とも、現在、伊勢原市の市政や産業、文化の中心を担っている方々の訪問とあって、最大限の対応をしてくださったようです。

これを機会に、両町とはもちろん、霊山大山や、日向薬師の歴史に係わる方々との交流が、さらに深まることを祈念しています。そして、そのお手伝いができるよう活動を続けてまいります。